

外国語（英語）科

研究主題 表現力を育てるスピーキング指導の 在り方

研究の概要及び索引語

「話すこと」の言語活動を中心に、生徒一人一人が様々な状況に対応した、内容のある英語を表現できるようにするための指導の在り方に焦点を当てた。中・高等学校生徒及び教師の意識・実態調査に基づき、生徒が必要感をもって英語で表現する機会を多く設定し、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるための指導の在り方について、中・高等学校での創意・工夫をした授業実践を通して研究した。

索引語：英語，英語指導助手，言語活動，コミュニケーション，チーム・ティーチング

目 次

I 研究の趣旨	84
II 研究の内容	84
1 研究主題についての基本的な考え方	84
2 研究主題にかかわる意識・実態調査	85
3 授業研究の実践	90
【授業研究1】 中学校第3学年 Program 6 "The Home Planet"	90
【授業研究2】 中学校第3学年 Pop Box 4 "Let's Talk in English"	92
【授業研究3】 高等学校第1学年 Expressive Speeches (Oral Communication A)	96
【授業研究4】 高等学校第1学年 Expressive Debate (Oral Communication B)	99
III 研究のまとめ	103

I 研究の趣旨

近年の我が国を取り巻く国際的な環境は、教育、学術、文化を含め、様々な分野において著しい進展を見せている。このような状況を背景に、中・高等学校における英語教育に対する期待や関心が高まり、英語によるコミュニケーション能力の育成がますます重要視されてきている。

学習指導要領の改訂により、中・高等学校の外国語（英語）科では、言語活動の一層の充実が図られた。中学校における具体的な改善の要点としては、まず、言語材料の学年配当の枠が外され、より弾力的な指導が可能になった。また、「聞くこと・話すこと」の言語活動を、それぞれ「聞くこと」「話すこと」の独立した言語活動の2領域とし、両者の質的・量的な指導の充実を期することになった。さらに、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4領域で内容が構成され、これらの4領域の指導事項について、指導内容の重点化を図り指導の発展性を明確にするために、各学年ごとに指導すべき主な事項が示された。これらの学年別の指導事項は、生徒の実態等に応じて適切な指導を行うために、当該学年より前の学年で指導することも可能であるし、後の学年においても反復して指導し、習熟させることも可能になった。高等学校では、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」等の科目においても、「聞くこと」及び「話すこと」の言語活動を積極的に取り入れて指導することとなった。さらに、「オーラル・コミュニケーションA, B, C」の3科目が新設された。

本研究では、これらの具体的な改善事項を踏まえて、「学ぶ力を育てる学習指導の在り方」という共通研究主題のもと、コミュニケーション能力の基礎となる「話すこと」の言語活動に焦点を当て、生徒の側に立って、中・高等学校における表現力を育てるスピーキング指導の在り方の研究を行った。

II 研究の内容

1 研究主題についての基本的な考え方

「話すこと」の言語活動の指導では、生徒に発話の必要性を意識できるように配慮し、日々の英語学習において、話すことに対する自信と喜びをもたせることが必要である。そのためには、英語指導助手を積極的に活用することや、英語学習にふさわしい雰囲気づくりをすることが重要な要素となる。さらには、授業中に生徒の話す英語が文法上不正確であっても、メッセージの受容・伝達ができることを優先させるという考えをもって授業を進めることが大切であると考える。

これらのことを指導の基底として、授業中に英語で表現することが抵抗なくできる雰囲気づくりと英語で表現する場をできるだけ多く設定することにより、「英語で話せた。」「言いたいことを理解してくれた。」という喜びを生徒一人一人に味わわせることが必要である。さらに、「英語でもっと話してみたい。」という積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることも必要である。

そこで、「話すこと」に関する英語学習状況や指導の状況を把握するために、県内の中・高等学校の生徒及び教員を対象に、意識・実態調査を実施した。これらを分析することにより、「話すこと」の指導の問題点等を考察した。

これらを踏まえ、コミュニケーション活動として、中学校ではスキットやロールプレイを、高等学校ではスピーチ、ディスカッション及びディベートを取り入れて、英語で表現する力を育てるためのスピーキングの指導に焦点を当てた授業研究を実施した。

2 研究主題にかかわる意識・実態調査

平成6年度において、本県の中・高等学校の教員及び生徒を対象として、「話すこと」に関する英語学習状況や指導の実態を把握するために意識・実態調査を実施した。その結果によると、「話すこと」の指導は、他の3領域の活動とともにバランスよく行われ、英語で表現する場面、学習形態、英語指導助手（AET）とのチーム・ティーチングによる授業及び視聴覚教材の積極的活用等の工夫がされているのが分かった。しかし、「話すこと」の力を育てるための効果的な指導については、試行錯誤しながら追いつめているのが現状である。

(1) 調査対象及び人数

(人)

中学校生徒					中学校教員				
学年	1年	2年	3年	合計	教職経験	21年以上	10～20年	10年未満	合計
男子	113	117	125	355	男子	4	15	11	30
女子	119	116	111	346	女子	7	12	15	34
合計	232	233	236	701	合計	11	27	26	64

高等学校生徒					高等学校教員				
学年	1年	2年	3年	合計	教職経験	21年以上	10～20年	10年未満	合計
男子	174	154	148	476	男子	16	19	13	48
女子	214	243	275	732	女子	11	11	10	32
合計	388	397	423	1208	合計	27	30	23	80

(教員は英語科担当者)

(2) 実施時期 平成6年10月24日から11月5日まで

(3) 調査形式 質問紙法

(4) 調査結果の分析と考察

- 英語学習指導に関する調査は、教員と生徒に対してそれぞれ5項目とした。調査内容は教員と生徒では異なるが、できるだけ対応するようにした。なお、中学校と高等学校の質問内容は同一である。また、質問1については一つ選択とし、質問2～質問5については二つ選択とした。表中の数字は人数(実数)、グラフ中の数字は%を示す。

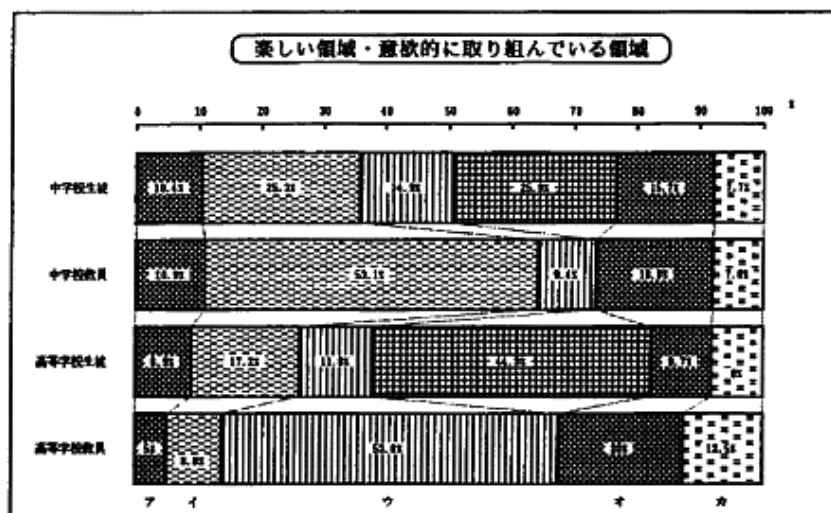
【質問1】

〈生徒〉 英語の学習の中で、楽しいのはどんな領域ですか。

〈教員〉 英語の学習で、生徒は次のどの領域に意欲的に取り組んでいると思いますか。

	項目	中学校		高等学校	
		人数	%	人数	%
生徒	ア 英語の内容を聞き取ること	73	31	107	25
	イ 英語で相手に話すこと	177	76	207	49
	ウ 英文を音読すること	104	45	142	34
	エ 英文の内容を理解すること	181	78	532	125
	オ 英語で文を書くこと	110	48	117	28
	カ その他	54	23	96	23
教員	ア 「聞くこと」	7	11	4	6
	イ 「話すこと」	34	53	7	11
	ウ 「読むこと」	6	9	43	54
	エ *音読と内容理解を「読むこと」に含める。				
	オ 「書くこと」	12	19	16	20
	カ その他	5	8	10	13

中学校ではイを選択した教師が半数以上であることから、話す活動の指導に重点を置いていることが分かる。イを選択した生徒が約25%となっているが、これは、AETとのチーム・ティーチング等によるコミュニケーションを中心とした活動の効果が出てきているためと思われる。しかしながら、生徒の意識としては、まだ、読む活動や書く活動を好む傾向がある。生徒と教師の意識の



バランスがとれるような学習指導の在り方をさらに工夫する必要があると思われる。

高校では、音読や内容理解を選択する生徒が60%近くを占めている。教師も約75%がウとオを選択していることから、読む活動と書く活動に重点を置いていることが分かる。この状況から、「話すこと」の能力を高める指導については、かなりの工

夫が必要と思われる。

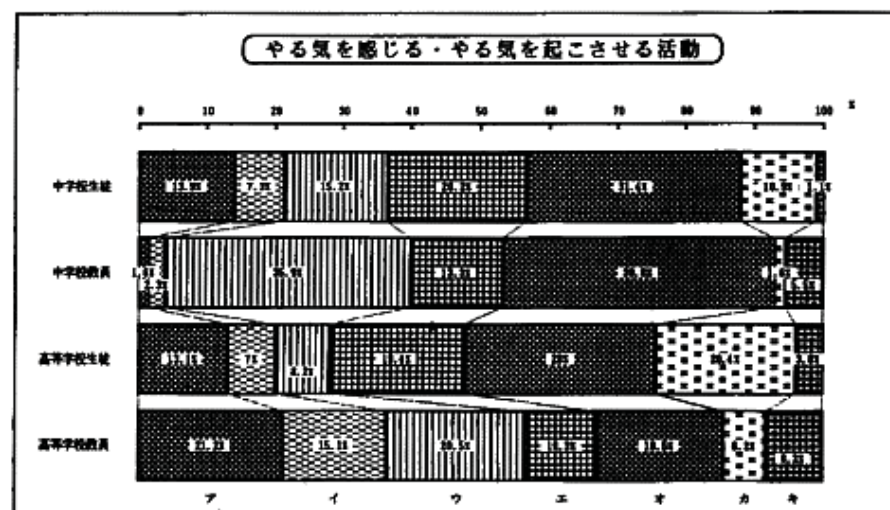
【質問2】

〈生徒〉 「話すこと」の学習で、どんなときにやる気を感じますか。

〈教員〉 「話すこと」の学習で、生徒にやる気を起こさせるためにどのような学習活動を取り入れていますか。

調		項 目	中 学 校	高等学校
生 徒	ア	全員で同じ活動をしているとき。	194 [^]	303 [^]
	イ	先生に個人的に教えてもらっているとき。	101	162
	ウ	ペアによる活動をしているとき。	212	190
	エ	グループ活動をしているとき。	281	450
	オ	ゲームを取り入れた活動をしているとき。	437	648
	カ	LSIやコンピュータを使った活動をしているとき。	152	473
	キ	その他	15	89

調		項 目	中 学 校	高等学校
教 員	ア	一斉授業による活動	2 [^]	31 [^]
	イ	机間観察による個別指導	3	22
	ウ	ペアによる活動	46	30
	エ	グループ活動	17	15
	オ	ゲームを取り入れた活動	51	27
	カ	LSIやコンピュータを使った活動	2	9
	キ	その他	7	12



まず、全体に共通するのはオが多く選択されていることである。これは、教師側が生徒のやる気を起こさせるために、ゲーム性のある活動を工夫して取り入れているし、生徒側もやる気をもって取り組んでいると考えられる。また、中学校教師は、ウ、エ、オを合計すると約90%を占めること

から、聞く活動や話す活動にかなりの重点を置いていることが分かる。高校教師では、中学校に比べると、アやイが占める割合が多いが、ウやオの活動にも重点を置く傾向が見られる。高校生徒がカを多く選択していることにも注目したい。

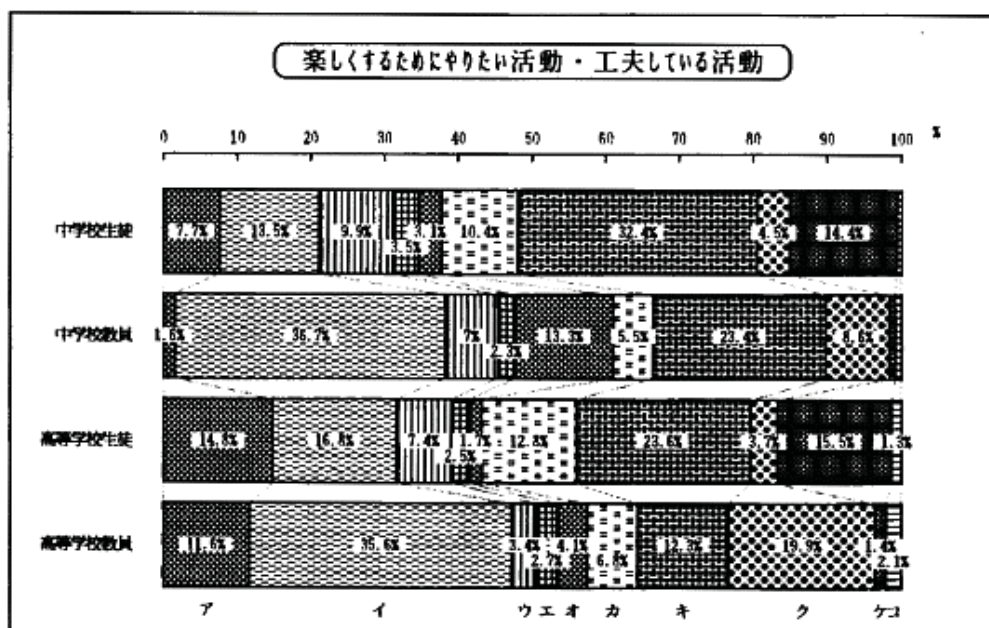
【質問3】

〈生徒〉「話すこと」の学習を楽しく行うためには、どのような活動がしたいですか。

〈教員〉「話すこと」の指導をより楽しくするためには、どのような工夫をしていますか。

調	項 目	中 学 校	高等学校
生 徒	ア 視聴覚教材を使った活動	107 ^人	350 ^人
	イ A E Tの先生と話す活動	189	397
	ウ テーマを決め、生徒同士で英語を話す活動	139	175
	エ スピーチを取り入れた活動	49	58
	オ スキットを取り入れた活動	43	40
	カ 英語の歌を取り入れた活動	145	302
	キ ゲームを取り入れた活動	453	558
	ク 教科書の内容を英問英答する活動	63	87
	ケ ラジオやテレビの番組を活用した活動	201	365
	コ その他	8	30

調	項 目	中 学 校	高等学校
教 員	ア 視聴覚教材を使う。	2 ^人	17 ^人
	イ A E Tの先生と話す機会を多くする。	47	52
	ウ テーマを決め、生徒同士で英語を話す活動を取り入れる。	9	5
	エ スピーチを取り入れる。	3	4
	オ スキットを取り入れる。	17	6
	カ 英語の歌を取り入れる。	7	10
	キ ゲームを取り入れる。	30	18
	ク 教科書の内容を英問英答する活動を取り入れる。	11	29
	ケ ラジオやテレビの番組を活用した活動を取り入れる。	1	2
	コ その他	1	3



全体的にイとキを選択した割合が多くなっている。教師はA E Tを効果的に活用し、楽しい活動ができるようにするとともに、話す力を身に付けようとしている。生徒もA E Tとの活動が楽しいと考えている。ゲーム性のある活動も生徒にとっては魅力的である

るし、教師も内容を工夫して取り入れているようである。これらのことから、話す活動の中心は、

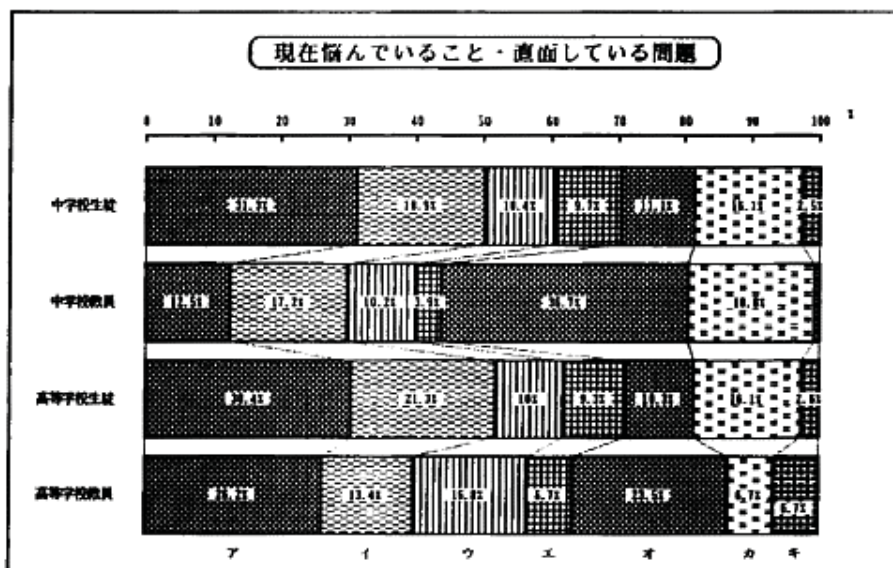
AETの活用とゲームを取り入れることの2本柱であることが読み取れる。その反面、スピーチやスキットの活用があまり意識されていない。英語を話す場、使う場の設定の大切さを考えると、これらの活動の在り方とその効果を研究していく必要があると考える。また、カやクのように、生徒と教師で選択割合の異なる活動にも注目したい。

【質問4】

〈生徒〉「話すこと」の学習において、現在悩んでいることは何ですか。
 〈教員〉「話すこと」の指導において、現在直面している問題は何か。

生徒	項目	中学校	高等学校
	ア	話そうとする気持ちはあるが、その場になると英語が話せない。	433 [^]
イ	勉強していても力がかからない。	262	498
ウ	教科書の予習復習で精一杯で、英語を話す練習ができない。	144	235
エ	話す力をつけるためのいい教材がない。	134	218
オ	進学のことを考えると「話すこと」だけに重点を置けない。	154	242
カ	会話表現を学んでも、英語を話す機会があまりもてない。	223	376
キ	その他	35	60

教員	項目	中学校	高等学校
	ア	生徒が話すことに消極的である。	16 [^]
イ	教師の力不足を感じる。	22	20
ウ	教科書の指導だけで精一杯である。	13	25
エ	話す力をつけるためのいい教材がない。	5	10
オ	進学のことを考えると「話すこと」だけに重点を置けない。	47	35
カ	会話表現を学んでも、授業以外でなかなか生かせない。	24	10
キ	その他	1	10



生徒の傾向としてはアが最も多く、話す学習をする機会が増えてきていても、実際に自分の考えや気持ちを英語で表現することには慣れていないことが読み取れる。また、イやカを選択している割合が多いことから、「話すこと」の学習の難しさがうかがえる。コミュニケーションの手段としての言葉のもつ働きを十

分に踏まえた学習の在り方を研究する必要性がここにある。高校の教師の選択で最も多いのもアであることにも注目したい。

教師側では、オを選択した割合が多い。進学のための学習とコミュニケーション能力を育成する学習を統一できない問題が表面化している。コミュニケーション能力を育てながら、それが同時に入試にも通用するような学習の在り方を試行錯誤しながら追い求めているのが現状であろうと考える。

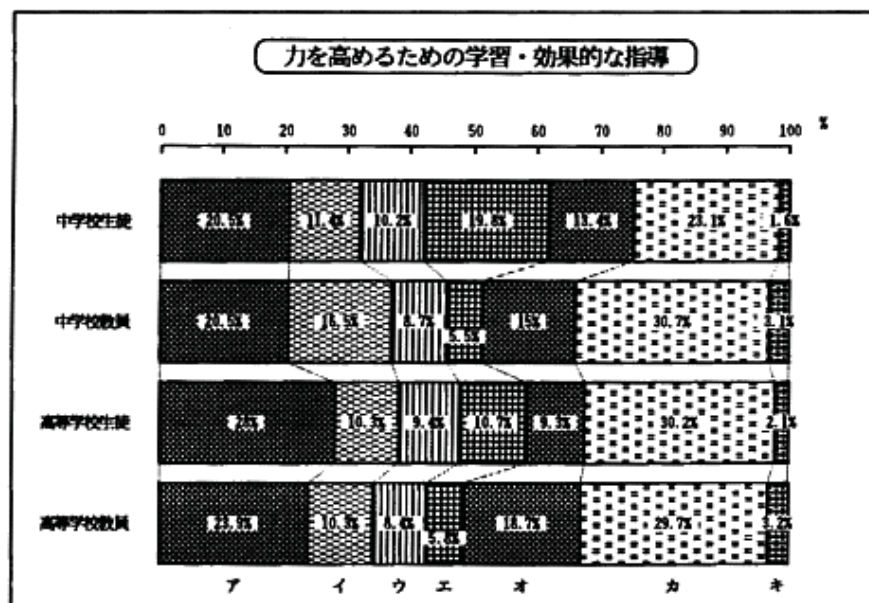
【質問5】

〈生徒〉 あなたが「話すこと」の力をさらに高めるには、これからどのように学習していきたいですか。

〈教員〉 生徒が「話すこと」への意欲を失わず、力を高めていくには、これからどのような指導が効果的だと思いますか。

記号	項目	中学校	高等学校
ア	文法的な間違いを気にしないでどんどん話すようにする。	285 ^人	653 ^人
イ	スピーチやスキットの練習をする。	159	239
ウ	教科書以外のスピーキング教材を利用する。	142	220
エ	教科書の基本文型を暗唱する。	275	249
オ	授業で先生や友達にできるだけ英語で話しかける。	187	217
カ	外国人（AETなど）と話す機会をもっと多くする。	322	703
キ	その他	22	50

記号	項目	中学校	高等学校
ア	文法的な正確さをあまり追求しない。	26 ^人	37 ^人
イ	スピーチやスキットを取り入れる。	21	16
ウ	教科書以外のスピーキング教材を利用する。	11	13
エ	教科書の基本文型を暗唱させる。	7	9
オ	教室英語を活用し、日本語をなるべく使わない。	19	29
カ	チーム・ティーチングを効果的に活用する。	39	46
キ	その他	4	5



この問いに関しては、生徒も教師も力を最も多く選択している。やはり、ネイティブ・スピーカーであるAETとの直接の触れ合いが、話す力を高めるためのよい方法であるとの意識が強い。しかし、生徒にとってAETと話す機会がどのくらいあるのかは問題であろう。1時間の授業だけでは限りがある。チーム・ティーチングを効果的に活

用するのはもちろん重要であるし、生活の中でも様々な場において、AETとのコミュニケーションを図ることも大切である。オも含めて、いかに英語を使う環境をつくるかがポイントとなるであろう。

次に選択の割合が大きいのアであり、これも生徒と教師が共通している。日本人は、間違えたくないために正確さを重視し、言いたいことを控えてしまう傾向が強いが、この結果から、どんどん話してみたいという気持ちはあることが分かる。教師もそれを認めていこうとしている。両者が同じように考えていることを互いに理解し、自由で気楽な気持ちで学習できる雰囲気であれば、話す活動がより活発になり、話すことに自信がもてるようになるであろう。

3 授業研究の実践

【授業研究1】 中学校第3学年 Program 6 “The Home Planet”

(1) 授業研究に当たって

意識・実態調査をみると、中学校においては、話す活動の指導に重点が置かれ、チーム・ティーチングが効果を上げている。話すことに対する生徒の興味も増加している。ペア・ワークやグループ・ワーク等の学習形態が多く用いられ、ゲーム的な学習活動が盛んに行われている。このように、英語の学習にオーラルを中心とした活動が導入され、学習の在り方が工夫されている。しかしながら、生徒たちは自分の考えや気持ちを自分なりの英語で表現することにはまだ慣れていない。英語を使う場があっても、それが自分の意思とは関連のない内容だったり、単なるパターンの繰り返しであったりすること等に原因があると思われる。

そこで、ある状況を設定し、その場の中で生徒自身の考えを英語で表現し、練習をした上で発表することにより、自分なりの表現力を育てるために、スキットの導入に着目した。

本題材は読み物であるが、内容理解にとどめることなく、理解したことを生かしたり、新しい情報を付け加えたりして、自分の考えを表現する活動を取り入れて、話すことに重点を置いた。具体的には、グループで環境を守るためのコマーシャルを作ってスキットにまとめ、テレビ・ショーの形で発表し合った。このように、生徒が自分たちの考えを相手に伝えようとする場を設定することにより、英語で表現する力を高めたいと考える。

(2) 指導の手だて

ア 指導計画に基づき、題材を弾力的に扱う。第1時に聞き取りを中心とした学習を行い、本題材のあらましについて理解できるようにする。そして、生徒一人一人が自分なりの目標をもって取り組めるようにする。また、まとめの活動としてのテレビ・ショーに向けてグループを構成し、計画的な取り組みができるようにする。

イ 文法事項の学習と本文の読み取りとを分離して授業を組み立てる。

ウ ワークシートを活用して、本文の内容や文法事項に関連した表現の練習をする。

エ 自分たちが調べたことをもとに、「環境保護」をテーマにしたコマーシャルのスキット作りをグループで話し合いながら行う。スキット発表の前にリハーサルをする。スキット作成に当たっては、AETとのチーム・ティーチングにより支援をする。

オ グループごとに発表するコマーシャルのスキット練習をしてからテレビ・ショーを行う。生徒は、決められた観点に基づいて友達の発表を評価することにより、集中して聞くようにする。

カ 題材のまとめの時間では、重要表現についての理解を深め、題材全体の取り組みについて自己評価し、感想を書く。

(3) 学習指導案

1	日 時	平成6年12月14日(水)第4校時
2	学 級	3年5組(男19人、女16人)
3	題 材	Program 6 “The Home Planet” (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)
4	指導計画	省略(9時間扱い、本時は第8時)

5 本時の指導

(1) 目標

- ア テレビ・ショーの中で、環境に関するスキットを進んで発表しようとする。
- イ 自分の役割に従って、スキットを発表することができる。
- ウ テレビ・ショーの要点について理解し、環境問題についてペアで対話することができる。

(2) 展開

学 習 活 動	援助・指導上の留意点と評価														
<p>1 Greetings</p> <p>2 Warming up (Pictionary) astronaut, bud, moon, acid rain, Madagascar, deforested</p> <p>3 Confirming today's objectives</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Let's make presentations about saving the earth.</p> </div> <p>4 Preparing for TV show</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく元気にあいさつし、楽しい英語学習の雰囲気をつくる。(JTE, AET) ○ 楽しみながらピクショナリーをし、英語学習への意欲を高めたい。(AET) ○ 生徒の理解の様子を観察しながら、できるだけ教宰英語を使って、本時の課題と手順について確認する。(JTE) ○ 各グループを回り、練習の進行状況を把握するとともに、良い点を褒めて励まし、うまくいかない部分については助言する。(JTE, AET) ○ 発表に使う小道具等については、練習で実際に使ってみて、その効果について助言する。(JTE, AET) ㊦ スキットの練習場面で、進んで話そうとしていたか。(観察) 														
<p>5 Television Kaichu goes on air</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">Group</th> <th style="width: 85%;">Each Group Topic</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>Losing the Forest</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>The Clean Kinu River That We Want</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>Hurting the Earth</td> </tr> <tr> <td>IV</td> <td>Precious Forest</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>The Environment for Our Future</td> </tr> <tr> <td>VI</td> <td>Animals Talk</td> </tr> </tbody> </table>	Group	Each Group Topic	I	Losing the Forest	II	The Clean Kinu River That We Want	III	Hurting the Earth	IV	Precious Forest	V	The Environment for Our Future	VI	Animals Talk	<ul style="list-style-type: none"> ○ AETがアナウンサーになり、英語で進行することにより、英語が自然に話せる雰囲気をつくり、テレビ・ショーを盛り上げる。(AET) ○ 次に発表するグループの準備状況を観察し、必要に応じて助言を与え、スムーズに進行するようにする。(JTE) ○ 発表の内容や様子の良い点を褒め、英語で表現する楽しさを感じ取れるようにする。(AET) ○ 他グループの発表について評価をすることにより、聞くことに集中するようにする。 ㊦ 環境に関する自分の考えを英語で表現することができたか。(観察・発表)
Group	Each Group Topic														
I	Losing the Forest														
II	The Clean Kinu River That We Want														
III	Hurting the Earth														
IV	Precious Forest														
V	The Environment for Our Future														
VI	Animals Talk														
<p>6 Talking freely in pairs about the TV program they watched</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>One student talks about the TV program about the environment. He/She tells why it is important for us to care for the planet.</p> <p>The other student listens to his/her friend's talk about the TV program. He/She tells his/her friend about what people are already doing to help the environment. He/She suggests some things that he/she can do together to help.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ・ショーを鑑賞し合うことにより、環境問題に関する自分の考えをもったところで、今までに見た環境についてのテレビ番組の内容も話題に含め、ペアで対話する。 ○ 対話のための表現例を示したシートを参考にして、自分の考えを表現することができるようにする。 ○ 対話の様子を観察し、考えを認め励ますとともに、表現方法について助言する。(JTE, AET) ㊦ テレビ・ショーと環境問題について自分なりの英語表現で対話できたか。(観察) 														
<p>7 Self-evaluation</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習への取り組みについて自己評価することにより、次時への学習意欲を高める。 														
<p>8 Farewell</p>															

(4) 授業の考察

今回の授業では、生徒たちは、自分たちで調べ、みんなで話し合ってスキットを作成し、発表するという活動を通して、教科書の内容をさらに深め、環境問題について考えることができた。スキットの作成を通して話す力を高めるには、生徒が意欲的に取り組めるような課題の開発と発表の場の工夫が最も大切であると考えます。

(1) 授業研究に当たって

2年次の授業研究に当たり、コミュニケーション能力を一層伸ばすために、場面設定に重点を置き、即興的な対話ができるように配慮した。そこで、生徒にペアを組ませ、一方が日本人の生徒役、他方が外国からの交換留学生役という設定をし、ロールプレイを行うことにした。模擬パーティーという状況の中で、日本人の生徒役はできるだけ交換留学生役に話しかけ、交換留学生役は日本人の生徒役に話しかけることにより、即興的に話す必要のある場面を設定した。この活動の中に相互評価を取り入れ、互いのよさを認めるようにした。さらに、JTEは交換留学生役と対話し、AETは日本人の生徒役と対話する中で、評価をするようにした。

(2) 指導の手だて

ア ペアについて

生徒はペアを組んだ後に、日本人の生徒役と交換留学生役について話し合って役割を決定する。その後、右のワークシートを活用し、自分の役割づくりをする。その際、ワークシート以外のことについても様々な状況設定をしておくことによって、話題が豊かになるようにしておく。

資料1 ワークシートI

YOUR PART
(日本人の生徒役)

This is your chance to practice your English with someone from another country. Do your best!

1 You are a student at Kaichu. You are in the _____ grade.

2 You are interested in _____.

a. sumo
b. kendo
c. soccer
d. Japanese music
e. comic books
f. _____

資料2 ワークシートII

YOUR PART
(交換留学生役)

1 You are an exchange student from _____.

a. U.S.A. b. U.K.
c. Canada d. Australia
e. _____

2 You are a junior high school student in the _____ grade.

a. 8th b. 9th c. 10th

3 You are interested in _____.

a. sumo b. kendo c. soccer
d. Japanese music
e. a famous place in Mitsuikaido.
f. _____

イ 対話の話題について

実際のパーティーで知らない人に話しかけることはなかなか難しいことである。そこで、資料3のように、話しかけるときの失礼にならないようにするための、ていねいな表現を練習した。また、話を切り上げる場合でも同様のことに配慮した。

実際に話す内容については、一般的で初対面の人との話題として抵抗なく取り組めるものを取り上げた。

ウ 対話の指導について

どちらか一方だけが質問し、他方は答えるだけにならないようにするため、互いに質問し合ったり、相づちを打ったりし、話題が発展するように努めた。プリントの基本表現以外にも既習の表現を十分活用するようにした。実際の対話の場面では、できるだけ相手の目や顔を見ながら対話をするように支援した。

資料3 ワークシートIII

AT THE PARTY

Introduction
I don't think we've met. I'm _____.

Talking
1 When did you come to Japan?
2 What do you enjoy doing in your free time?
3 What's your interest in Japan?

Bye-Bye
It's been nice talking with you. I'll see you again. / I hope to see you again.


(3) 学習指導案

- 1 日時 平成7年10月18日(水)第3校時
 2 学級 3年2組(男18人,女17人)
 3 題材 Pop Box 4 "Let's Talk in English" (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)
 4 指導計画 省略(2時間扱い,本時は第2時)
 5 本時の指導

(1) 目標

- ア 基本表現を生かして,英語で質問したり,答えたりすることができる。
 イ 模擬パーティーの中で,自分の役割に基づいて進んで対話しようとする。

(2) 展開

学 習 活 動	援助・指導上の留意点と評価
1 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく元気にあいさつし,楽しい雰囲気の中で英語学習を始めるようにする。(JTE, AET)
2 Warming up (Interview) <ul style="list-style-type: none"> ○ What grade are you in? ○ What is Mitsukaido famous for? ○ Where do you live? ○ When did you come to Japan? ○ What do you enjoy doing in your free time? 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 座席は日本人の生徒役と交換留学生役との二つに分け,誰がどの役割かを明確にする。 ○ JTEとAETの質問に対して,自分の役割の立場で答えるようにし,英語で話す雰囲気に慣れるようにする。(JTE, AET) ◎ 自分の役割の立場で質問に答えることができたか。 (観察)
3 Confirming today's objectives <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> Let's enjoy talking at the party using key expressions and other expressions. </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ教室英語を使うことにより,本時の課題と模擬パーティーの手順について確認をする。さらに,交換留学生は英語しか話せないという状況設定がポイントであることも確認する。(JTE)
4 Practicing key expressions <ul style="list-style-type: none"> ○ I don't think we've met. I'm _____. ○ When did you come to Japan? ○ What do you enjoy doing in your free time? ○ What's your interest in Japan? ○ It's been nice talking with you. ○ I hope to see you again. 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 模擬パーティーで話し掛けるきっかけをつくる表現,話題をもちかける表現,話を切り上げる表現の例を練習し,対話がスムーズにできるようにする。(JTE, AET) ○ 事前に準備したセンテンスカードを黒板に提示し,声に出して練習する。できるだけ文を見なくとも言えるまでにしておきたい。(JTE, AET)
5 Presentation of prepared skits	<ul style="list-style-type: none"> ○ 代表によるスキットの良い点を褒め,英語で表現することが楽しいことを感じ取れるようにし,英語を話すことへの抵抗を無くしたい。(JTE, AET) ○ スキットを鑑賞し,良い点を参考にするとともに,相互評価の仕方について理解できるようにする。(JTE)
6 Party Time! <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飲み物や菓子類を用意して雰囲気を盛り上げ,英語による対話をリラックスして楽しめるよう配慮する。(JTE) ○ 模擬パーティーの時間を十分取り,できるだけ多くの生徒と対話ができるようにする。 ○ 相互評価カードで対話について評価し,相手の良い点を見付けるようにする。【相互評価カード】 ○ JTEとAETも生徒の中に入り,対話を通して生徒の活動の様子を評価する。(JTE, AET) ◎ 模擬パーティーの中で進んで対話しようとしていたか。 (観察・VTRによる記録) ◎ 模擬パーティーの中で自分の役割に基づいて適切な対話ができただか。 (観察・VTRによる記録・自己評価・相互評価)
7 Students make impromptu presentations	<ul style="list-style-type: none"> ○ 模擬パーティーでの対話の様子から,モデルを数グループ選んでおく。即興的な対話の良い場面を賞賛し,今後の意欲付けとする。(JTE, AET)
8 Self-evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習への取り組みについて自己評価し,次時への学習意欲を高める。【自己評価カード】
9 Farewell	

(4) 相互評価カード

模擬パーティーの活動の中で活用したのが資料4の相互評価カードである。学級全員の名前と評価の観点がかかれていて、自分が対話した相手が一覧できる。番号に○印が付いた生徒は交換留学生役を示す。

資料4 相互評価カード

相互評価カード		Grade 9th, Class 2, No. Name									
* よい2, もう少し1		No.	First Name	Last Name	プリントを見ないで対話したか	相手の顔を見て対話したか	他の表現を使って対話したか	質問に適切に答えられたか	自分の役割をしっかりと演じていたか	合計	備考
○					1						
		2									

(5) 自己評価カード

模擬パーティーの中では相互評価をしたが、本時の終末部分では自己評価をした。それが資料5の自己評価カードである。1～5までの評価の観点は相互評価と同じであるが、楽しさに関する観点と簡単な感想を書く部分を付け加えた。

資料5 自己評価カード

自己評価カード			
9th Grade, 2nd Class, No. Name			
1	プリントを見ないで対話できたか。	はい	まあまあ
2	相手の顔を見て対話できたか。	はい	まあまあ
3	基本表現以外の表現を使って対話できたか。	はい	まあまあ
4	相手の質問に適切に答えられたか。	はい	まあまあ
5	自分の役割をしっかりと演じることができたか。	はい	まあまあ
6	楽しく対話できたか。	はい	まあまあ
7	感想(学習を振り返って)		

(6) まとめと考察

ア 生徒の自己評価から

授業研究1での生徒の主な感想は資料6に示すとおりである。79%の生徒が、「授業が楽しかった。」と答えているが、話すことそのものに関する感想があまり見られなかった。

資料6 授業研究1での生徒の感想

- セリフが最初にあったので緊張した。
- 自分なりによくできたと思う。
- 今度も頑張りたい。
- みんなが評価してくれたのでよかった。
- 自分たちで地球環境について考えることができた。

資料7は授業研究2における生徒の主な感想である。97%の生徒が「楽しく対話できた。」と答えている(次ページ表1を参照)ことと、話すことに直接結びつく感想が増えていることから、英語によるコミュニケーションへの意欲が高まったと考える。

資料7 授業研究2での生徒の感想

- 今までは英語で会話ができないという理由から、外国の人と会話をしなかったけれど、今日の授業で外国の人と会話することはいいと簡単だということが分かった。
- とても楽しかった。もっと英語の力を上げて、さらに楽しめるようにしていきたい。

表1は自己評価カードの1～6の項目について、生徒の回答をまとめたものである。項目1から、約41%の生徒がプリントを見ないで対話できたとしていることと、50%の生徒がだいたい見ないでできたとしていることから、事前の準備がよくできたことと、生徒も自信を

もって対話に臨んでいたことが分かる。項目2では、約91%の生徒が相手の顔を見て対話できたとしている。この項目はコミュニケーション活動を成功させる要素の一つである。このことから、生徒たちが単なる形式的な対話でなく、自分の意思

表1 自己評価カードの集計結果

(%)

題	自己評価の観点	はい	まあまあ	いいえ
1	プリントを見ないで対話できたか。	40.6	50.0	9.4
2	相手の顔を見て対話できたか。	90.6	9.4	0.0
3	基本表現以外の表現を使って対話できたか。	56.3	43.7	0.0
4	相手の質問に適切に答えられたか。	50.0	46.9	3.1
5	自分の役割をしっかりと演じることができたか。	71.9	21.9	6.2
6	楽しく対話できたか。	96.9	3.1	0.0

でコミュニケーションをしようとしている様子うかがえる。項目3は今回の研究の重点の一つである。事前の練習時間は十分取れなかったものの、その生徒なりに基本表現以外の表現を全員が使うことができた。項目4では約97%の生徒が相手の質問にだいたい答えることができたとしている。また、項目5では94%の生徒が自分の役割を演じることができたと答えている。約6%の「いいえ」と答えた生徒は、英語での表現が思うようにできなかったことが理由と思われる。このように、ロールプレイではあるが、生徒たちは自分の役割の立場で、自分なりの思いを英語で表現することを楽しむことができたと考える。

イ 場面及び状況の設定

模擬パーティーの時間は自由に活動することになるため、ある程度日本語を使う場面があると予想されたが、生徒たちはほぼ英語を通して対話することができた。しかも、それぞれの生徒が自分なりの思いを自分なりに表現していた。さらに、資料3のワークシートⅢのパターンのみにとどまることなく、既習の表現も使って対話していた。これは、ロールプレイによる効果と模擬パーティーという状況の効果と考える。資料1と2のワークシートによる役割づくりも英語で話す雰囲気づくりに効果があった。

ウ 考察

生徒はグループやペアで、対話したり発表したりすることが好きである。この気持ちを生かしながら、英語で表現する力を育てるためには、基礎・基本となる表現練習を積むとともに、できるだけ実際のコミュニケーション場面に近い状況の中で、即興的な練習をすることが大切であると考えられる。

生徒の英語による表現力を高めるには、次のような点に工夫が必要である。

- 生徒が意欲的に取り組めるような課題の開発と発表の場の工夫
- コミュニケーション活動の年間計画への位置付けと継続的な実施
- オリエンテーションを通して、生徒が学習への見通しをもち、計画的に学習を進められるような工夫
- 生徒が自分で学習を進められるような学び方の工夫
- 学習効率を上げ、学習を定着させるためのワークシートの活用
- 生徒の学習意欲を高める自己評価や相互評価の工夫
- 既習の表現を繰り返し活用する工夫

(1) 授業研究に当たって

オーラル・コミュニケーションAの目標や内容を考えると、これからの英語教育は、従来の受信型から発信型への転換が必要不可欠であることを示している。生徒間に積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するためには、授業で英語を多用するだけでなく、スピーチ活動を通して、自己表現力・自己発話能力を訓練する機会が必要である。

スピーチを聴く生徒は、「身近な日常生活の場面で相手の意向などを聞き取る。」という活動をするようになる。また、スピーチをする生徒は、英文の原稿を作成するときに、自分で調べたり、先生やAETに尋ねたりすることにより、「自分の考えなどを英語で話す能力を養う。」という段階に到達できる。そして、スピーチ後に質疑応答や評価票を導入することによって、「段階的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」ことにつながると考えた。

このように、スピーチ内容を考えて発表する機会を設けることにより、生徒が英語で表現する場を得て、英語で発表することに自信がもてるようにした。また、聴く側の生徒が受け身にならないようにするための相互評価票を取り入れた。さらに、コミュニケーション能力を高めるためには、生徒の興味・関心がある内容のスピーチを中心に授業を進めたいと考える。

(2) 指導の手だて

1年生のクラスで、オーラル・コミュニケーションAを選択している。年度当初から、同級生をよく理解するために、自由なテーマでのスピーチを取り入れている。自己紹介を兼ねた2分程度のスピーチの後に、そのスピーチについて質問する時間を設定し、授業の活性化に役立てたいと考えた。また、同級生のスピーチを聴くことによって、互いの親密感も育てたい。

ア スピーチをする生徒への指導

生徒が興味・関心をもちそうなタイトルを50程度選んで、事前に生徒に配付した。4人の生徒を選び、できる限り原稿を英文で書けるように支援した。スピーチをする生徒への個別指導では、生徒の書いた英文をできる限り大切に活用することに留意した。また、原稿作成に当たっては、英語指導助手の協力も得た。さらに、話した内容をよく理解してもらうために、単に言葉だけによるスピーチではなく、思い出の写真などの小道具を持参し、見せながらスピーチすることとした。

イ スピーチを聴く生徒への指導

スピーチを聴く生徒が受け身にならないように、内容理解を確かめるプリントを2種類用意した。1枚は、スピーチの内容、声の大きさ、発音、目の位置及び小道具の5項目を4段階で評価できる評価票である。この評価票は、スピーチが終了するごとに評価を記入し、次の生徒のスピーチが始まる前に集めた。評価票の後半は、スピーチをした生徒に対しての質問用の参考例文が記入されていて、英語で質問しやすくしてある。また、「スピーチをした生徒に一言」の欄を設けた。同級生はそれに激励の言葉や感想を書き、スピーチをした生徒に切り取って直接渡した。スピーチをした生徒は、その個人的な感想を読むのを楽しみにしていた。この欄は、生徒同士の交流を深めるのにも役立った。

もう1枚は、それぞれのスピーチを聴いた後に、日本語で要約を記入することにより、スピーチの内容の理解度を評価するのに役立つようにした。要約を添削指導することにより、生徒と教師の相互通行のコミュニケーションを図った。

(3) 學習指導案

- I Date: December 16, 1994
 II Class: 4th Class, 1st Year
 III Text: Expressways Oral Communication A
 IV Material: Expressive Speeches
 V Aims of this lesson:
 i To provide the students with the opportunity to express themselves in English.
 ii To provide the students with the opportunity to learn more about their fellow students through English.
 iii To provide a free and relaxed atmosphere for the students to enjoy English.
 VI Teaching Procedure:

PROCEDURE	STUDENTS' ACTIVITIES	TEACHER'S ACTIVITIES		POINTS TO NOTE	TIME
		J T E	A E T		
Greetings	Greet JTE & AET.	Greets students. Introduces special guests. Warm-up questions.	Greets students. Warm-up questions.	How to get students to switch to English.	5
Speech	Students receive handouts and write their names. Speaker No.1 comes to the front. Speaker writes her name and topic on the blackboard. Speaker presents her speech. Students listen and take special notice of grading procedures. Students complete grading evaluation. Students in the rear of the row gather the handouts. The handouts are then presented to the speaker. Do the same thing three more times. Speaker No. 2 Speaker No. 3 Speaker No. 4	AET and JTE review grading procedures. Distribute handouts to students. Asks students to make some questions about her speech. Walk around in the classroom and check students' understanding for her speech. JTE, AET and students ask questions occasionally. Help students gather the expressions of the speeches. Do the same thing three more times. Speaker No. 2 Speaker No. 3 Speaker No. 4	Asks the speaker about what she has told.	How to get students familiarized with the speeches. How to get students involved in the activity. How to get students to acquire the expressions. How to get students interested in the speeches.	43
Farewell	Say farewell to JTE & AET.	Announces the next class.	Greets students.	How to get students interested in the next class.	2

(4) スピーチ評価票

スピーチを聴く生徒の内容理解を確かめるためにスピーチ評価票を使用した。

スピーチ評価票				
Expressive Speeches				
Speaker Number _____	Name _____	Topic _____		
Please listen closely to your fellow student's speech. Remember, you will be asked to answer some questions and also to ask the speaker a few questions about her speech. Have fun and pay attention!				
同級生のスピーチをよく聴いてください。最後に、同級生があなたに質問をするかもしれないし、あなたが同級生に質問をすることになるかもしれません。				
Speech Evaluation Sheet				
Category	Points	Category	Points	Point Value Excellent = 4 Good = 3 Fair = 2 Average = 1
Content		Eye-Contact		
Loudness		Use of Props		
Pronunciation		TOTAL POINTS		
How did you do?	20 points	Super Job!!	Keep up the good work!!	
	15-19 points	Great!!	Never give up!!	
	10-14 points	Nice Try!!	Always do your best!!	
	0- 9 points	Fight!!	Keep trying to speak English!!	
----- キリトリセン (Please detach along this line.) -----				
Listen closely to your fellow student's speech and answer the following questions in English. 頑張りましょう!				
1	Why did you choose this topic? _____			
2	How long did you practice your speech? _____			
3	Did you get any help? _____			
4	Do you enjoy speaking? _____			
5	Do you want to find a job to use English? _____			
Comments: What did you like about her speech? (スピーチをした生徒に何か一言)				

No. _____ Your Name _____				

(5) まとめと考察

スピーチというよりはショー・アンド・テルの要素が強かったが、スピーチをした生徒の得意な分野や趣味、人柄を知る上でよい活動であった。スピーチをした生徒は、同級生が書いたコメントを読むのを楽しみにしていた。しかし、スピーチを聴く生徒の評価の在り方、生徒同士の相互補助の仕方等については、今後、更に検討をする必要がある。

スピーチを取り入れた結果、生徒間にはコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度が徐々に育ち始めていることから、今後もこのような授業を展開しながら、生徒の表現力を育てる指導を継続的に実施したい。単なる知識としての英語から、経験を通して獲得した生きた英語へ脱皮したいと考えているが、実際にスピーチをした生徒へのアンケートでは、「英語で原稿を作成するのに困った。」という意見が多くあった。生徒の積極的な自主学習を支援するために、簡単な「スピーチ用例集」を作成し活用していきたい。

【授業研究4】 高等学校第1学年 Expressive Debate (Oral Communication B)

(1) 授業研究に当たって

オーラル・コミュニケーションBの目標や内容を考えると、音素の集まりとして英語をとらえるのではなく、言葉は話し手の意志伝達的手段ととらえるべきであると思われる。すなわち、言葉の中に人間的な感情を入れることだと考える。その内容を聞き取るのがオーラル・コミュニケーションBの目標である「話し手の意向などを聞き取る能力を養う」ことにつながる。また、自分の意見を英語という言語を介して発言することが、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことになる。

ディベートは、「自然な口調で話されたり、読まれたりする内容を聞き取ること」につながり、さらに「まとまりのある文章の概要や要点を聞き取ること」によって、他人の考えを理解できるようになる。また、その「聞き取った内容について、自分の考えなどを整理して話すこと」によって、内容を深化することができる。ディベートは、積極的に自分で資料を集める必要があり、その過程で英文の資料に出会えば、英文を読む(Reading)ことになり、発表する原稿を作成するときは、英作文(Writing)の練習になり、相手の意見を聴き取る(Listening)必要もある。次に、反論や質問をするときは、人前で話す(Speaking)ことになる。このように、ディベートは4技能を集約した活動とも言える。

(2) 指導の手だて

ディベートには専門的な用語が多いが、英語で自分の意見を表現する楽しさを体験するために、そのような用語にとらわれず、自分の英語力の範囲で論理的に意見を述べることに重点を置くようにした。

ア 事前のプリント

ディベートを導入する前に「DiscussionやDebateに役立つ表現」のプリントを配付した。このプリントは、ディベートの進行に合わせて最初から利用できるようになっている。

イ スピーチをする生徒

2人の生徒を事前に指名し、肯定派、否定派に分ける。

ウ グループ討論

自分の意見を深め、

相手の意見を理解するために、六つの班を作り、英語で討論する。

エ ディベート

賛成派、反対派の二つのグループに分かれてディベートを行う。グループから3人ずつ代表を選出して、交互に意見を発表することにより、優劣を競う。

資料8 DiscussionやDebateに役立つ表現

DiscussionやDebateに役立つ表現	
A 意見を述べる。	
1 In my opinion, ...	私の意見では...
2 Personally I think ...	個人的に思うのですが...
3 I believe that ...	私が思うに...
4 The point is this: ...	大切なのは次の点です。
5 I'd like to point out thatを指摘しておきたいと思います。
6 As far as I'm concerned, ...	私に関する限り...、私の考えでは...
7 In my experience, ...	私の経験では...
B 議論を深める。	
1 But what about...?	でも...はどうですか?
2 What's your answer to that?	そのことに対するあなたの答えは?
3 That can't be true.	そのことはありえません。
4 Are you seriously suggesting that...?	本当に...とおっしゃるのですか?
5 Could you be more specific?	もう少し詳しくお願いします。
6 On what basis do you say that?	何か例はありますか? どういう根拠でそんなことを言うのですか?
C 議論を明確にする。	
1 What I said was...	私が述べたことは...です。
2 I did not say...	私は...とは言っていません。
3 What I did say was...	私が言ったことは...です。
4 I think you misunderstood what I said.	私が言ったことを誤解しています。
5 Let me repeat what I said.	私の意見をもう一度言わせてください。
6 We should pay more attention to...	...にもっと注目すべきです。
7 The point that I'm making is (that)...	が言わんとしていることは...です。
D 同意する。	

(3) 學習指導案

- I Date: October 26th, 1995
 II Class: 8th Class, 1st Year
 III Text: Progressive Oral Communication B
 IV Material: Expressive Debate
 V Aims of this lesson:
 i To provide the students with the opportunity to express themselves in English.
 ii To provide the students with the opportunity to learn more about their fellow students through English.
 iii To provide a free and relaxed atmosphere for the students to enjoy English.
 VI Teaching Procedure:

PROCEDURE	STUDENTS' ACTIVITIES	TEACHER'S ACTIVITIES		POINTS TO NOTE	TIME
		J T E	A E T		
Greetings	Greet JTE & AET.	Greets students. Warm-up questions.	Greets students. Warm-up questions.	How to get students to switch to English.	5
Speech	Speaker presents her/his speech on a special topic in the affirmative way. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">Resolved: That all senior high schools should be coeducational</div> Students listen and take special notice. Do the same thing one more time in the negative way.	Tell students how to do this activity. Asks students to make some questions about her/his speech. Walk around in the classroom and check students' understanding for the speech.	Asks the speaker about what she/he has told.	How to get students familiarized with the speeches. How to get students involved in the activity.	10
Discussion	Students make six groups. Each group consists of seven or eight students. Chairpersons and reporters are chosen in each group. Each group discusses the subject. Reporter in each group reports on what they have discussed.	Tells students to form groups. Asks students to choose chairpersons and reporters. Check students' discussion walking among groups. Have students listen to reporters.	Helps students make six groups. Gives advice if necessary. Helps students choose them.	How to get accustomed to discussion. How to get students to think deeply on the special topic. How to get students to listen to reporters.	25
Debate	Students move to either side. Students debate on the subjects. Decide the first speaker on each side. The second and the third must respond to their opponents.	Lets students belong to either side. Have students choose representatives smoothly. Help students to be talkative. Let students raise their hands for which side they are and count the number. Distribute a handout to students.	Helps students decide to which side they are for.	How to get students interested in the debate. How to get students positive in the group. How to get students to listen to the opposite side.	20
Farewell	Say farewell to JTE & AET.	Announces the next class.	Greets students.	How to get students interested in the next class.	5

(4) 展開上の工夫

従来の受け身の授業からの脱却を考えて、生徒自身が考えて、自ら発表する機会を与えた。あまり技術的な用語にとらわれずに、総合的な英語力の養成や知的訓練の手段としてディベートをとらえるようにした。

ア 話し方・聴き方の礼儀

相手の話をさえぎったり、個人的な感情に左右されたりしないように気を付けた。本来のディベートとは、冷静な思考のもとで、相手の考えを論破することであり、声を荒立てて話したり、強圧的に話したりするものではない。自分の意見を話す前に、相手の意見をしっかりと理解しなくてはならない。ディベートの基本は聴き取り (Listening) と言っても過言ではない。

イ 評価票の活用

限られた時間の中で自分の意見を発表できなかった生徒の意見を理解するために資料9のような評価票を作成した。自分がこの授業にどのようにかかわったか、また、自分は賛成派・反対派のどちらなのかを述べた後で意見を英語で記入してもらった。話すことは苦手でも、書くこととなると文量を多く書ける生徒が見られた。文法の間違いよりも、思考過程に重点を置いた添削を行った。

ウ 発言する機会の平等化

英語を流ちょうに話せる生徒と話せない生徒が自由に発言する機会を等しく得られるように配慮した。また、発音の正確さや美しさよりも、積極性や論理性を見るようにし、活発な授業になるようにした。普段の暗記型

よりも、討論型なので、生徒は気軽な雰囲気を楽しんだ。

資料9 評価票

EVALUATION SHEET			
Self-evaluation: How positive were you in the activity?			
<input type="checkbox"/>	Very positive		
<input type="checkbox"/>	Positive		
<input type="checkbox"/>	Not too positive		
<input type="checkbox"/>	Passive		
*Please make a check			
Debate Ballot			
Which do you support, the affirmative or the negative?			
<input type="checkbox"/>	the affirmative	<input type="checkbox"/>	the negative
Why?			
<input type="checkbox"/>	Content was good		
<input type="checkbox"/>	Style was good		
Comment			
Class _____ No. _____ Name _____			

(5) まとめと考察

オーラル・コミュニケーションBを、単に音の聴き分けではなく、意志伝達手段としての言語、すなわち、「聞き取った内容についての確認や賛否などを表す効果的な表現を指導する」という側面からとらえて、ディベートを実施してみた。

ア 自分自身で考えて発言できる喜びとともに歯がゆさを体験できた。ペーパーテストでは良い成績を残す生徒が、簡単な英語でつまずいていたし、また、普段の授業では目立たない生徒が活発に発言していた。英語学習の多面性を理解するよい経験になったし、自信を付ける生徒も現れた。この体験を生かして、自分の生活においても考える生活を充実してほしいものである。知的訓練として、ディベートは最適であると考えている。

イ 1時間で、スピーチ活動・ディスカッション活動・ディベート活動を加味した授業をしたので、時間的な余裕がなく、論点になった内容をノートに書き留める指導が行き届かなかった。今後は、意見を聞くときは、しっかり書き留めるように指導したい。そのノートを見直すことによって、自分の意見が後日集約されたいと考える。

ディスカッション活動の様子



ウ 授業後に実施したアンケートでは、「Debateは英語表現の勉強になると思う。」や「聴く、話す能力を養う授業としては最高だと思う。中学校の頃からやってみたかった。」等の感想があり、ディベートを取り入れた授業が生徒に受け入れられている。その反面、「英語で何と言っているのか分からなかった。」や「語彙力が足りなかった。」という感想もあり、易しい英語を使い、易しい構文で発言する習慣を付けさせたいと考える。

エ ディベートを通して、一つの論題には肯定派・否定派の二つの側面があることを理解

するようになり、実社会でも相手の立場を理解できるようになる。ディベートはオーラル・コミュニケーションBという科目、外国語という教科にとどまらずに取り組む必要がある。

資料10 授業に関するアンケート

授業に関するアンケート

1年8組

① これまでにDebateの経験(英語または日本語)はありますか。また、それはいつ、どういう時ですか。該当する番号に○印を付け、ある人は下線部に具体的に書いてください。

- 1 ある。いつ _____ どのような時 _____
2 ない。

② 2年生になっても、Debateの授業を続けたいですか。該当する番号に○印を付けてください。

- 1 是非続けたい。 2 続けなくてもよい。 3 どちらでも構わない。

③ 今回の授業でよかった点を最低二つ以上、具体的にかつ簡潔に書いてください。

④ 今回の授業で難しかった点を最低二つ以上、具体的にかつ簡潔に書いてください。

⑤ その他何か感想・意見があれば書いてください。

Ⅲ 研究のまとめ

2年間にわたり、県内の中・高等学校の生徒及び教員を対象にした意識・実態調査をもとに、中・高等学校における表現力を育てるためのスピーキング指導の在り方を研究してきた。

中学校では、平成6年度は英語を話す場を多く与えて、コミュニケーション活動をより活発にするために、スキットを取り入れたテレビ・ショーを題材にして授業研究をした。実際の授業では、生徒たちが、教科書で学習した内容をもとにした環境を守るためのコマーシャルづくりに、積極的に楽しみながら取り組んだ。スキットの内容作成やスキットに使う小道具の作成をするグループ活動においても、互いに協力し合う姿が見られた。また、クラス全体がなごやかな雰囲気の中で、英語を話すことへの抵抗感も少なく、全員が自分の考えを表現することができた。平成7年度は英語を話す必要性のある雰囲気づくりをし、生徒が自由に話せるように模擬パーティー形式を取り入れた授業研究をした。英語表現に役立つ既習の表現集を活用することにより、自分で話したいと思うことを追加すること等によって、より活発なコミュニケーション活動ができた。

高等学校では、平成6年度は英語でスピーチする場を設け、話す側、聴く側が互いに表現する力を伸ばせるように授業の工夫を図った。スピーチ活動を通して、クラスの中で普段付き合のない友達の人柄や趣味を知ることができ、クラスの雰囲気が一つにまとまる傾向になるといった効果もあった。平成7年度は、ディスカッションを土台として、ディベートを取り入れた授業を行った。内容が盛りだくさんではあったが、生徒一人一人が一つの内容について自分なりの考えを述べ合うことができ、不十分ながらもそれぞれの立場になって英語で表現することができた。体験することの大切さを考えると、準備等で時間がかかっても、英語による表現力を高めるために有効であったと考える。それぞれの授業後の生徒の反応を見ると、「自己表現ができるようになった。」「人前で話すことに少しずつ慣れてきた。」「英語に興味をもつようになった。」等、その効果を述べている。

これらの授業研究を通して、次のようなことが明らかになった。まず、活発なコミュニケーション活動のためにという視点からは次のとおりである。

- 英語を話すことが抵抗なくできる英語学習の雰囲気づくりを普段から設定する。
- 英語で表現しなければならない場面をつくる。
- 伝達・受容という点に重点をおき、文法上の正確さはあまり追求しない。
- 活用しやすい既習学習表現集を作成しておく。

次に、積極的なコミュニケーションのためにという視点からは次のとおりである。

- 英語で話すことが難しいことではなく、むしろ楽しい活動であることを体得できるような活動を工夫する。
- 知的発達段階に応じた、生徒が意欲的に取り組める題材の開発と発表の場を工夫する。
- 自己評価と生徒同士の相互評価を取り入れ、互いに励まし合いながら英語で表現することに自信をもたせる。
- 活動中や活動後における教師の適切な指導と、より客観的な評価方法の工夫をする。

この研究を通して、普段の授業にできるだけ多くコミュニケーション活動を取り入れ、生徒の表現する力を育てることが大切であると痛感した。ここに示した授業事例は、その方法としては1例であるが、準備をすればどの学校においても参考になり得るものであると考える。今後もさらに表現力を育てるスピーキング指導の在り方の研究を続けていきたい。